

第3 経営理念と経営の方向性

- 企業局のミッション
- ・ 将来にわたる廉価で安全安心な用水の安定供給
 - ・ 企業投資を促す産業基盤整備の加速化 #

(経営理念) サービス供給体制の充実と経営基盤の強化

■ 経営の方向性

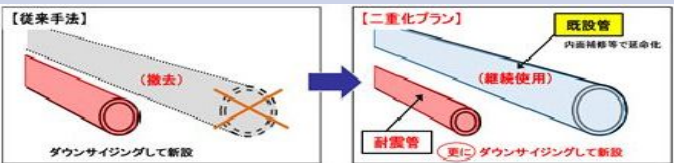
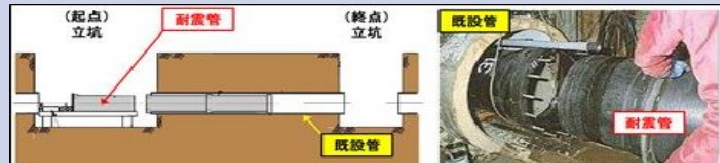
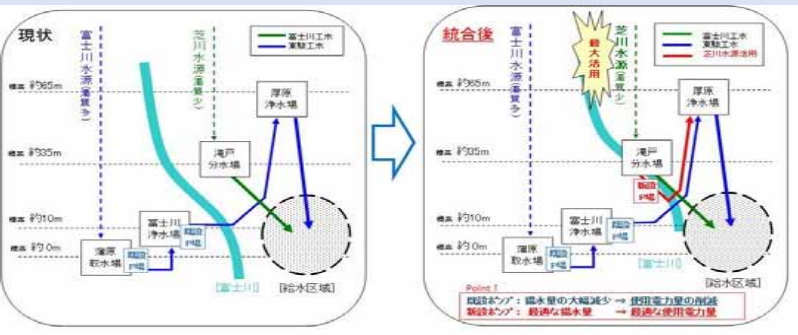
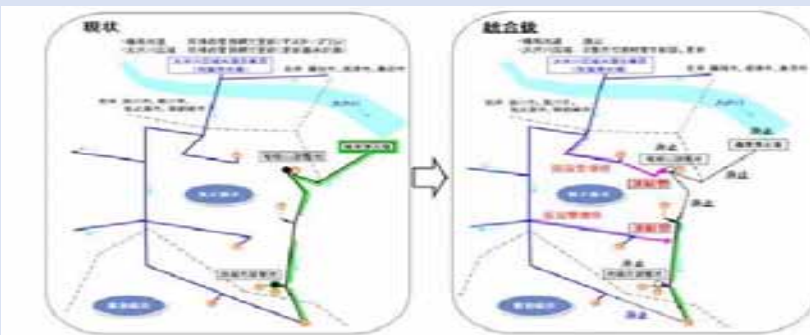
事業	経営の方向性
工業用水・水道事業	<ul style="list-style-type: none"> ○人材の育成と組織体制の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・ 技術研修やノウハウを記録する「ナレッジ動画」による技術の向上・継承 ・ 大規模更新の際のデザインビルドオペレート等の官民連携手法の導入 ・ 職員が創意工夫、経営革新を目指す風土の醸成 ○適正な維持管理の実施と施設・管路の計画的な更新 <ul style="list-style-type: none"> ・ 日常の維持管理の徹底による施設の長寿命化 ・ I o TやA I等の先端技術の活用による業務の合理化、遠隔化、自動化等 ・ 将来の水需要に見合った規模へのダウンサイジング、施設統合等 ○経営基盤の強化 <ul style="list-style-type: none"> ・ 収益確保、経費削減の手法を生み出すマネジメントにより経営革新を推進 ・ 未利用資産売却、新規需要開拓の推進 ・ 運営効率化による脱炭素社会への貢献、技術の還元による地域貢献
地域振興整備事業	<ul style="list-style-type: none"> ○多様な企業ニーズに対応した工業用地等の適時・適切な供給 <ul style="list-style-type: none"> ・ 多彩な造成方式を活用し、多様な企業のニーズに対応 ○新たな事業展開と経営の健全性の確保 <ul style="list-style-type: none"> ・ 戦略的な候補地選定と多彩な造成手法により、高付加価値な用地を供給 ・ 工事の効率性向上、コスト削減により顧客満足度を向上

第4 経営革新の取組

◇ 1,000億円の削減、1,000億円の直接投資、1,000億円／年の生産活動効果 ◇

◇ 抜本的改革

■ 工水・水道両事業で更新に必要な施設整備費を1,000億円削減

項目	内容
<p>新たな管路整備手法</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 48%;"> <p>○二重化プラン</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・ 既設管に平行して耐震型のバックアップ管を新設 ・ 既設管の撤去費用の削減（工事費の30%程度） </div> <div style="width: 48%;"> <p>○パイプインパイプ工法</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・ 既設管の内側に耐震管を挿入 ・ 道路の掘削費用の一部が削減 </div> </div>
<p>事業統合</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 48%;"> <p>○富士川工水・東駿河湾工水の統合</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・ 赤字の工業用水2事業を統合し、水運用を最適化 ・ 濁度の低い余剰水の有効活用により動力費と浄水コストを削減 </div> <div style="width: 48%;"> <p>○榛南水道・大井川広域水道の統合</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・ 広域化により、将来的な受水市町の負担を軽減 ・ 企業団の計画給水量と使用水量の乖離の解消 ・ 榛南水道の更新費用の抑制と事業廃止による合理化 </div> </div>
<p>官民連携手法</p>	<p>○大規模更新に合わせ、コストの削減と維持管理業務等の合理化双方の視点から導入を幅広く検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 富士川工水・東駿河湾工水の統合では、新設するポンプ場とその維持管理だけでなく、水運用全体も含めた幅広い視点での導入を検討